として次のようなものをあげています。

・入試テスト	・自校の実態に応ずる自作テスト
・標準学力テスト	・事前，事後，把持テストによる伸長度
・目標別到達テスト	・S－P表による個別的「つまずき」の診断
・知能テスト	・学習適応性検査
・性格検査	・諸テストバッテリーによる「つまずき」の診断

習熟度を数量的にとらえるには，定期テスト，事前テスト，事後テスト，把持テスト等の正答率，有効度指数（伸び率），把持率（定着率），指導の効果率などが用いられます。また，学習参加度などは，アンケートやチェックリストなどを用いて知ることもできます。

当然なことですが，これらのテストなどで習熟度をとらえる前提として，教材の精選・構造化が図られていなければなりません。そのためには指導目標・内容の分析をぜひとも行っておかなければなりません。

なお，伸び率や指導の効果率を求めるには，次の式を用います。

$$\text{伸び率}=\frac{(\text{事後テストが正答の小問数})-(\text{事前テストが正答の小問数})}{(\text{全小問数})-(\text{事前テストが正答の小問数})}\times 100$$

$$\text{指導の効果率}=\frac{(\text{事前テストが誤答の小問のうち，事後テストには正答になった小問数})}{(\text{事前テストの小問の誤答数})}\times 100$$

$$=\frac{(\times\bigcirc)}{(\times\bigcirc)+(\times\times)}\times 100$$